

第19回 ジャパンオープンハンドボールトーナメント 戦 評 報 告 書

競技日	平成26年 8月10日	試合番号	B-ね
種別・回戦	男子・2回戦	会場	和歌山県立体育館

そしお おおさか		ほんだ		得点チェック欄		
SOCIO OSAKA		HONDA				
16	8	前半	13	25	前半	<input checked="" type="checkbox"/>
	8	後半	12		後半	<input checked="" type="checkbox"/>
		第1延長 前半			第1延長	<input type="checkbox"/>
		第1延長 後半			第2延長	<input type="checkbox"/>
		第2延長 前半			7mTC	<input type="checkbox"/>
		第2延長 後半			合計点	<input checked="" type="checkbox"/>
		7mTC			記録主任確認	<input checked="" type="checkbox"/>

戦評	戦評委員氏名	中岸 速人
----	--------	-------

開始30秒、セットプレーからHONDA 7番早川が先制点を奪う。すぐさま、SOCIO OSAKAもオープンディフェンスから速攻で応戦。序盤は激しい点の取り合いとなった。11分、HONDA 6番が退場となったがゴールキーパー大畑の好セーブもあり、ここからHONDAが5点連取し流れを掴む。SOCIO OSAKAは積極的に詰めてくるHONDAのディフェンスに苦戦しながらも果敢に攻め続け、22分HONDAに2回目の退場者、ここで2点を奪い反撃を開始する。13対8、HONDAリードで前半終了する。後半の立ち上がり、HONDAはクロスディフェンスに、また緩急をつけた攻撃を仕掛け、ペースを掴もうとする。対するSOCIO OSAKAも20番山口、7番泉原のパスワークからシュートチャンスを作り、流れを導こうとするが連続してノーマークシュートを決めきれず点差を詰めることができない。こう着状態が続く中、後半20分HONDA 6番竹田のサイドシュートが決まり、8点差となる。SOCIO OSAKAも何とか追いつこうと速い攻撃を仕掛けるがタイムアップのブザー。25対16でHONDAの勝利となる。

送信担当記録委員	北井 恵子
----------	-------